

2021年度 名古屋芸術大学 入学試験問題
総合型選抜「AO 入学試験2期」

入試問題様式

試験科目：「小論文」

日 程：2020年12月12日(土)

試験時間：50分 / 解答字数：800字程度

芸術 学部 芸術 学科 舞台芸術 領域

対象コース： なし

[課題]

舞台芸術作品を創る際には、鑑賞者にとっての舞台芸術の意味や価値を想定することが重要です。あなたの創ってみたい分野(音楽・演劇・舞踊)を選び、中学生や高校生が舞台芸術に触れる素晴らしさを、あなたなりの観点で述べなさい。

[出題の意図等]

- ・受験生の舞台芸術への意欲を知りたい
- ・受験生の関心分野を知りたい
- ・鑑賞者の立場に立つことができるかどうかを知りたい
- ・鑑賞者の立場に立った上で具体的な想像力を働かせることができるかを知りたい

模範解答

舞台芸術に触れる意味は人それぞれだろう。もちろん、舞台芸術にどのような意味を見出すかといった価値も、きわめて個人的なものであろうと想像する。しかし、その意味や価値は、舞台芸術の鑑賞体験がベースとなって構築されているのではないだろうか。つまり、一回の貴重な体験が、その人にとっての舞台芸術の意味を成し、それに紐づいて価値が生成される。そして、その意味と価値は、その人が人生の中で数多く経験していかなくはいけない様々な判断の際に、大きな力を発揮すると自分は考えている。本論では演劇分野において、このことを考えてみようかと思う。

中高生は、10代だ。次代を担う若者である。どのような人生を歩んでいくのか、どのような社会を形成していくのか、いつも希望と不安を抱えながら生きている。そのような世代に対して舞台芸術がどのような意味と価値を発揮できるのかを考えると、私はやはり、人生の指針となるような深い意味と価値ではないかと考える。

それは具体的な方向性を示すものである必要はなく、例えば青年期を送る主人公が出てくる演劇で、主人公に鑑賞者（中高生）が自分を重ねながら観ることを想定して、主人公に青年期特有の自分探しをさせたり、人間関係の葛藤に苦悩させたりして、中高生の鑑賞者が共感を得るような構成にする。共感はやがて疑似体験となって、鑑賞後に自らの内面にフィードバックされていく。とはいえ、主人公の思考や行動は決して鑑賞者と同じであるわけではなく、その際に鑑賞者は、自分を重ねて疑似体験した主人公のことを自分なりに理解しようとする。このことは苦しい行為でありながらも、希望と不安の中で生きる中高生にとって、他者理解と自己理解を促すものであるために、非常に重要なことだと私は考える。

舞台芸術は、単なる娯楽として創ることができる一方で、鑑賞者にとって一生の経験にもなりうるものだ。このことを理解した上で、私は舞台芸術を創るべきと考えている。